



55号 2012.7.20

新グッズのご紹介



編みストラップ

¥600

手作りの為ひとつひとつ表情が違います。
縦横 45mm



フック付きキーホルダー

¥600

小ぶりの三連タイプ。
フック付き。
イラスト部分 直径 19mm

クリアファイル
2枚組(Cセット)
裏面全面写真
/A4サイズ
¥300



表面

新柄

Aセット・Bセットについてはグッズショップをご覧ください。



詳細は後援会のグッズショップを見てね！

<http://www.eyemate-support.org>

特集

平成24年度アイメイト後援会総会報告

地方開催第2弾

「歩み展in横浜」開催報告

TOPICS

- ブラインドサッカークラブ選手権「フィアットカルチョ」
- 大学のイベントでアイメイト啓発とグッズ販売
- コンタクトレンズのシードがアイメイト協会に寄付
- 栗山龍太さんの初代アイメイト追悼ライブ
- 同窓会総会を後援会員がお手伝い
- アイメイト協会新人職員紹介

協会だより

アイメイト卒業生人数
アイメイト募金実績報告
アイメイトデーのご案内

「夢のバカンス」
を教えてください！

連載記事

- アイメイト協会スタッフアンケート
- 後援会員なら知っておきたい
アイメイト協会の理念とアイメイトについての正しい知識
- リレー自己紹介【後援会】(大山 伸さん)
(首藤陽子さん)
- 同窓会自己紹介リレー (風間幸子さん)
(栗山龍太さん)

後援会からのお知らせ

- これまでの行事・活動&これからの行事・活動
- 今年は何かひとつ活動に参加しましょう！
- アイメイト募金芳名録
- 役員会議事抄録
- 会員のページ

アイメイトデーお手伝い募集！
ボランティア保険について
後援会今年度の新役員
会員名簿送付と個人情報の取り扱いについて
歩み展 in 津田沼
開催のお知らせとお手伝い募集

平成24年度アイメイト後援会 総会

〔2012年5月20日(日)〕

2012年5月20日(日)、アイメイト後援会の年次総会が、今年もアイメイト協会の3階会議室で開催されました。当日は、36名の会員が出席し、128名の方から委任状が届きました。また、アイメイト協会からも職員13名が出席していただきました。

■ 第1～5号議案を承認

総会は、予定通り10:30に開会し、第1～5号議案まで滞りなく承認され、無事終了しました。

■ 募金とグッズ販売の収益金を寄付

後援会では引き続き、グッズ販売や募金活動などを各地で行ってきました。

募金については、直接協会に送金する形が数年続いてスムーズになり、新しい募金箱も、古いものと順次取り替えて使用しています。設置場所も少しずつ増え、23年度の募金額は、街頭募金活動との合計で1,052万円となりました。



また、グッズ委員会では、この3月からネット販売も開始。人気グッズの売上げに加え、さらに新グッズの制作なども進めてきました。23年度の売上額は約665万円となり、その収益金を前記の募金に加えて、アイメイト協会へ寄付させていただきました。

こうした後援会活動及び寄付に対して、アイメイト協会から後援会へ感謝状が贈られました。

■ 職員へ靴券を贈呈

アイメイト協会職員へ後援会から「靴券」を贈呈しました。これは、日々、アイメイトとともに歩き



続けている協会職員を応援するために行っているものです。贈呈後、協会職員を代表して、鈴木裕司さんからお礼の言葉をいただきました。



■ 新入職員の自己紹介

新入職員（2012年4月～）から、自己紹介とご挨拶がありました。フレッシュで初々しい2人へ、後援会員からは期待と応援の拍手が送られました。



地方開催第2弾「歩み展 in 横浜」開催しました。

2012年5月1～6日（火～日） 於・アートフォーラムあざみ野（神奈川県横浜市）

「盲導犬の父 塩屋賢一とアイメイトの歩み展in横浜」が、2012年5月1～6日（火～日）、アートフォーラムあざみ野（神奈川県横浜市）で開催されました。

パネル展示を中心にシンプルな構成となった横浜開催でしたが、期間中に300名以上来場者がありました。また、地域での積極的な広報活動の結果、新聞各紙やC A T Vなどの取材が多数あり、アイメイト協会の創設者であり国産盲導犬第1号を生んだ塩屋賢一氏の足跡を、多くの方々に伝えることができました。



■歴史とボランティア活動のパネル展示

塩屋賢一氏の誕生から、国産盲導犬第1号のチャンピイが生まれるまで、そして、その後、数々の困難を乗り越えながら、社会への啓発、普及を行ってきたアイメイトの歴史を、パネル展示で辿りました。

また、ボランティア活動を紹介するコーナーでは、飼育奉仕家庭で育つ子犬の様子や、ボランティア家庭での幸せそうな写真が多数展示されました。

■展示会場の地元、青葉区長からも称賛の声

「歩み展in横浜」開催の翌月、アイメイト協会理事長から、うれしいメールが届きましたのでご紹介します。

「昨日（6/21）、横浜あおばライオンズクラブの例会に行きました。同じテーブルに青葉区の区長が同席しており、『歩み展 in 横浜に行きました。とても素晴らしい展示内容でした』とお褒めをいただきました。（塩屋隆男）」



■歩み展 in 横浜を紹介した新聞記事／広報

「読売新聞」「神奈川新聞」「東京新聞」、そして東急ケーブルテレビなどが会場に取材に訪れました。「URBAN田園・ニュータウン」など、コミュニティ紙などでも報道していただきました。

報道を見て来場された方もいらっちゃって、多くのかたに、塩屋賢一氏が切り拓いてきたアイメイトの足跡をお伝えすることができました。

東京新聞 2012.5.5



読売新聞 2012.5.3



神奈川新聞 2012.5.3



アイメイトの原点を、たくさんの方に知らせたい。

横浜開催の原動力となり、また実行委員の中心メンバーである吉岡さんへのインタビューです。

Q. 開催しようと思ったきっかけは？

A. 最初は、第1回目の歩み展を見た松野さん（横浜在住の後援会員で、今回の実行委員中心メンバーの一人）が大変感動され、「横浜でも出来ないかしら」と持ちかけられました。

会場のアートフォーラムが安く借りられること、駅からも比較的近い、受付は特に必要としない... など、私としては条件を満たしていると感じたので、松野さんに相談しました。会場を見ていただき賛同を得、後援会の鈴木さんに相談したという順序です。

その後、鈴木さんと開催日の調整をしながら今までのように協賛の募集はせずに、負担にならない方向でいきたいとお伝えしました。初回の展示は見てなかったのですが、上尾に出向きイメージをつかみました。

会場があるこのあたりは、すぐ近くに日本盲導犬協会の拠点がある関係か、アイメイトの知名度が低いので、少しでも多くの方に知っていただくこと... そんなことを考えていました。

Q. 普段はどんな活動を？

A. 決まった活動はしていませんが、時間が合えばカレンダーやグッズの販売などのお手伝いをちょっと。

アイメイトとの関わりは4年前から。繁殖犬（♂）を飼育しはじめて、それまではアイメイトのことは全く存じませんでした。

Q. 中心になったのは、吉岡さんと松野さんですね。仕事はどのように分担しましたか？

A. 対外交渉（会場、後援申請、チラシなど）は吉岡が、松野さんはお顔が広いのと知識も豊富なので開催中のスタッフ集めと新聞社などの対応をしていただきました。



Q. 苦労したことは？ それをどうやって乗り越えた？

A. 初めてのことでしたので、何から手を付ければよいかわかりませんでした。後援申請やチラシづくりなど鈴木さんにアドバイスを頂き、少しずつ形になっていきました。

開催日が近くなるにつれ多くの方が快く支えてくださりあらためてアイメイトの輪の広がりを感じました。特に苦労したことはなかったように思います。（能天気ですみません...）

強いて言えば会場となるフォーラムは特定の利用者のみが来館するのでどう集客するか... というのでしょうか。チラシの配布先の検討、地域紙、全国紙、イッソコム TV などのマスコミを利用しました。

Q. 300名以上の来場者に加え、多数のマスコミ報道がありました。

A. この数が多いか少ないかはわかりませんが来場者の皆様にアイメイトを知っていただく機会になったのは嬉しく思います。

最終日にはマスコミを見て来場された方が多くいたのであらためてマスコミの威力に脱帽しました。開催にあたって多くの方のお手伝いを頂きました。一人の力ではここまでできなかったと思います。展示のみ（体験歩行などが無い）でしたがやってよかったと思います。

Q. 「歩み展」の今後について、ひとことお願いします。

A. 自分にできることをできる範囲で協力するというやや消極的な後援会員ですが これからも微力ながら応援していきたいと思います。

やってよかったなと感じた瞬間は、来場者の笑顔を見たときです。また、機会があれば微力ながらお手伝いを（-）と考えています。

来場者の感想から

会場に設置したボックスに寄せられたご感想（一部）です。

○活動の大変さを知りました。

○このフォーラムの塩屋賢一の世界は友人に連れられてきました。何も知らない考えたことも無い世界です。このような素晴らしい人がいてアイメイトの出来たことは映画を観ているような感動に包まれました。これから何かお手伝い出来るかもしれませんがとてもよく理解できました。

○新聞でこちらの会を知りました。私が通っていた吉祥寺教会（現 練馬教会）の裏にあり懐かしくこちらに行かせていただきました。よく道で訓練をしていたことを思い出します。こちらの会は日本で初めてアイメイトを生み出したことを今回知りました。私も何かの形でお手伝いできたらと思っています。とても感激しました。

○何事も最初に物事をするということは大変なことがわかりました。長い間かけてここまでやりぬいたことに感動しました。人のために役立つことは本当に素晴らしいと思います。

○最初は何事も立ち上げるのは大変な苦勞だったと思いますが塩屋さんの思いと行動力のおかげで今や多くの人々がどんなに助かっていることでしょう。飼育奉仕の方々も愛情を注いで育てられるからこのように続いているのだと改めて感動させられました。ますますのご活躍を祈ります。

○「盲導犬」をここまで育てて立ち上げた塩屋さんに感動しました。

○とても素敵な時間を過ごすことが出来ました。ご説明有難うございました。勉強にとともになりました。

○10年前、盲導犬を使いたいと思い友人に話したところ、全盲の人には渡してもらえないと聞きあきらめました。今日、ここで弱視でなくても盲導犬を使用できることがわかりました。ただ残念なことに70歳近くなった今では初めての使用は無理のようです。視覚障がい者の仲間たちに全盲でもアイメイト使用者になれることを伝えたいと思います。（代筆）

遠方からのご来場も

右写真のお二人は、茨城と千葉からいらっしゃいました。アイメイト使用者と同じ職場の方達ということです。

車椅子の方が赤荻（あかおぎ）美佐江さん（茨城県つくばみらい市）で、後ろの方が渡辺明子さん（千葉県鎌ヶ谷市）。

対応したスタッフいわく「とっても優しくて、いい方達で、お話していても楽しくて気持ちのいい方達でした」とのこと。ありがとうございました！



「盲導犬の父 塩屋賢一とアイメイトの歩み展 in 横浜」概要

○日程：2012年5月1～6日（火～日）

○展示時間：平日（1～2日） 9：00～21：00

祝日（3～5日） 9：00～17：00

最終日（6日） 9：00～15：00

○場所：「アートフォーラムあざみ野」

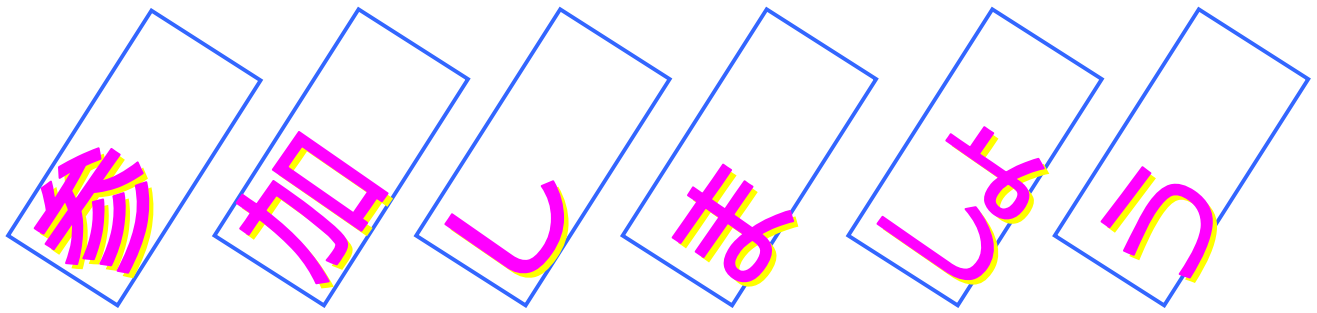
1階交流ラウンジ内ミニギャラリー

住所・横浜市青葉区あざみ野南1-17-3

○主催：アイメイト後援会「盲導犬の父 塩屋賢一とアイメイトの歩み展 in 横浜」実行委員会

○協力：公益財団法人アイメイト協会

○後援：横浜市健康福祉局



今年度は何かひとつ活動に参加しましょう!

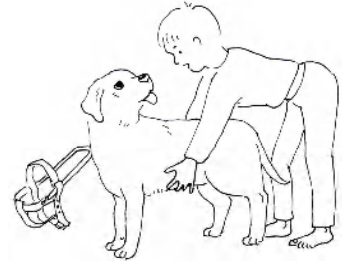
初心を思い出して下さい・・・

後援会に入ろうと思ったとき、「自分にも何かできるのでは♪」とワクワクして入会したのではありませんか?

今からでも遅くありません!

初めての方も久しぶりの方も大歓迎です!

今年は何かひとつ、活動に参加してみませんか!?



◆犬が好き!犬に触りたい!という方は

残念ながら仕事中的のアイメイトには触ったり、声をかけたりすることはできません。

しかし募金活動やグッズ販売などに後援会員が飼育中の子犬やリタイア犬を連れてくることがあります。

犬がいたら人が集まるし、訪れる方たちが犬を撫でたりした後で募金して下さることが多いからです。

是非募金活動やグッズ販売に参加して、かわいい候補犬やリタイア犬たちに会いにきて下さい。

それをきっかけに他の後援会員と親しくなれるかもしれません!

⇒募金やグッズ販売の予定は、ミニ通信「これからの行事」、またはホームページでご確認下さい。

◆視覚障害者の方たちのお手伝いをしたい方は

後援会の重要な活動のひとつに、アイメイト協会を卒業した使用者の方たちでつくる「アイメイト同窓会」のお手伝いがあります。イベント参加のお手伝い、会報発送のお手伝いなどがあります。

同窓会の総会やレクリエーション、協会主催のアイメイトデーには、たくさんのアイメイト使用者の方たちが参加されます。後援会では受付や誘導などのお手伝いをしながら、使用者の方たちとおしゃべりを楽しむなどして親交を深めています。また、誘導の仕方を教わったり、間違えて指摘を受けたりすることもあり、毎回勉強です。初めての方でも大丈夫ですので、お手伝い募集の際には是非ご参加下さい。

⇒今年は9月30日にアイメイトデー、11月には同窓会のレクリエーションがあります!

誘導はちょっと自信がない、という方には同窓会の会報CD「ひろば」や点字文書発送のお手伝いがあります。年3~4回発行の「ひろば」や、点字によるお知らせ文書等発送の際は、同窓会の担当者数名がアイメイト協会に集まって作業しますが、そこにちょっとお邪魔して一緒にワイワイおしゃべりしながらの、とても楽しい作業です。

⇒「ひろば」や点字文書発送のお手伝いに興味がある方は後援会役員平井さんにお問い合わせ下さい。

◆地域で活動したい方は

地元の商店などに募金箱を置いてもらいましょう。

設置が1ヶ所でも増えることで、募金は確実に増えます。

⇒「募金箱設置のお願い」の文書や募金箱のご希望、またご質問なども鈴木会長までご連絡下さい。

地元のお祭りやフリーマーケットに出店して、グッズ販売をしましょう!

グッズがたくさん売ればもちろんうれしいですが、アイメイトの普及啓発にも一役買うことができます。

⇒出店してみようかな、と考えている方は鈴木会長にご相談を!

◆外に出るのが苦手な方は・・・

後援会ホームページのグッズショップでグッズをご購入下さい!間もなく新商品も発売されます。

こまめにチェックして最新のグッズをゲット!お支払は代引きでお願いしています。よろしくお願い致します。

⇒URLは <http://moudouken-shop.com>

アイメイトも参加した啓発・交流イベント

～ブラインドサッカークラブ選手権「フィアットカルチョ」～

(報告・溝井祐樹)

視覚障害者と晴眼者が同じチームで協力しながら戦うスポーツ「ブラインドサッカー」のクラブ選手権（日本ブラインドサッカー協会主催）が、2012年3月17・18日（土日）、東京都調布市のアミノバイタルフィールドで開催され、アイメイトも啓発活動の一環として参加しました。といっても、ブラインドサッカーをしたのではなく、参加者を対象に「アイメイト歩行体験」や説明を行いました。アイメイト後援会もサポート役として、グッズ販売などを行いました。

アイメイトブースで体験歩行

アイメイト協会から職員2名と犬2頭が来場。同時開催のフットサル参加者たちを対象に、アイマスクを付けてハーネスを握り、障害物を避けながら歩いていただきました。

あいにくのお天気でしたが、かなり広いスペースがあったため、イスを探させる「チェア」など、単に歩くだけではない体験をしていただきました。

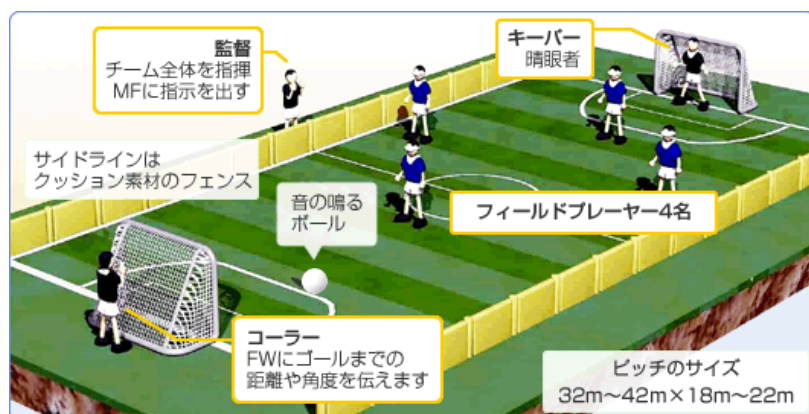
後援会によるグッズ販売

サポート役として、後援会メンバーによるアイメイトチャリティーグッズの販売を行いました（17日は雨天のため中止。18日のみ）。



ブラインドサッカーとは？

ブラインドサッカーは、イマジネーションとオリエンテーションを駆使する本格的なスポーツです。アイマスクを装着し、視覚をシャットダウンしながら行う5人制サッカーで、音の鳴るボールを使います。視覚障がい者と健常者が同じフィールドでプレーすることのできるユニバーサルスポーツであると同時に、日本サッカー史上最高のストライカーと言われる釜本邦茂氏が、「芝の上のもう一つの格闘技だ」と評したほどの激しいスポーツです。



大学のイベントで、アイメイト啓発とグッズ販売

～ アイメイト使用者とともに ～

■「東京女子大園遊会」で啓発とグッズ販売

(報告・平井三敬)

アイメイト使用者2名と後援会など6名が参加 ～

■グッズ販売や「こんにちワン」の配布を

4月29日(日)、東京女子大園遊会に参加しました。東京女子大(通称とんじょ)は東京の西にあり、新渡戸稲造が初代学長の歴史ある大学です。園遊会とは同窓生の方達を中心になって毎年春に行われる行事でマンダリンの演奏やチェアダンスもあり、とても賑やかです。

今回は東北地方からのバザーの出店や被災地の方の手作りの品物も並びました。

後援会の役員で女子大の同窓生でもある三村さんの紹介で毎年(去年は震災で中止)参加しています。

今回はアイメイト使用者2名と後援会やお手伝い6名の参加でグッズを販売したり「こんにちワン」を配ってアイメイトの事を理解してもらう啓発をしました。



生の家族連れや震災で卒業写真の撮れなかった女子大生の袴姿で賑わいました。

当日参加した高澤さん(写真左)に感想を聞きました。「被災地の岩手の野菜を買いました。菜花や椎茸など、すごく安かったんですけど、少しは貢献できたかなと思います。それから、障害者団体が手作りしたビーズのピアスも買いました」。

■帰り道にひと波乱

帰りに、朝にも入ったコーヒーのチェーン店「ドトール」で「いぬはダメ」と入店を断られとても気分を害しました。まだまだ盲導犬への理解は浸透していないのですね。そして近くの「モスバーガー」へ入ってコーヒーを飲んで帰りました。

■アイメイト使用者とともに出店で買い物

女子大らしく、おしゃれなアクセサリーや服を売る店も出店されていたので使用者の女性お二人もお店の人の説明を受けながら買い物をしました。同窓

■「オール学習院祭」で体験歩行と、啓発・グッズ販売

(報告・鈴木節子)

アイメイト使用者3名と後援会など約10名が参加 ～

■2年ぶりの「オール学習院祭」

4月15日(日)、「オール学習院祭」に参加しました。去年は東日本大震災の影響で中止となりましたので、2年ぶりの開催です。当日は天候もよく、楽しい一日でした。

協会からも職員が参加し、アイメイト体験歩行も実施。行列ができるほどの人気で、賑わいました。

キャンパス内別館前の庭に咲く大木の緑桜を見つけました。まことに上品で美しい、皇室御用達の感がありました。



シンガーソングライターの栗山^{りょうた}龍太さんが 初代アイメイトの追悼ライブを開催

神奈川県にお住まいの栗山龍太さんは、2月に亡くなった初代アイメイト・パームを追悼するライブを横浜市内のカフェで4月に行いました。

栗山さんは、2代目のアイメイト・ダイアンと「栗山龍太 & ダイアン」の名前で活動するシンガーソングライターです。

ライブ当日は、栗山さんの友人やファンの方、パームを引き取ったご家族など40名ほどが来場。栗山さんがオリジナル曲を披露したほか、生前のパームの様子をスライドで映ししながら、栗山さんが書いた追悼のメッセージを対面朗読ボランティアの方が朗読しました。



追悼メッセージが朗読されるなか、栗山さんがピアノを奏でた。

僕たちの挑戦 長田さんありがとう
栗山龍太

ちょうど4年前10歳の時に、パームは8年間の盲導犬としての役目を終え、その後東京都文京区の長田さんのお宅でたくさんの愛情をうけながら余生を送りました。そして去る2月23日の早朝安らかに息を引き取り、大型犬としては14歳という長寿を全うしました。

そこで、そのパートナーシップを組んでいた僕からもお礼と感謝の意味を込めて想いを添えさせていただきたいと思います。

僕がパームの一生を考えた時、いつも思っていたことがあります。犬にとっての幸せとはなんなのか、これはパームがリタイアするまで私自身がずっと自問自答していた課題でした。そして犬としての人生をできる限り全うさせたいという願いでした。

人間でも犬でも同じだと思いますが、誰とどんな時間をどのように過ごしたかということがその一生に大きく関わってくれたからだと思います。そして、盲導犬である前にもし盲導犬にならなければ普通の犬としての一生をおくっていたらと思うからです。

パームとの出会いはどう考えても偶然と必然の一致でした。さまざまなボランティア、訓練士、多くの方の温かい気持ちに支えられパームは僕のもとにやってきました。

当時20代の僕でしたので、最も変化の大きい時期でもありました。引越は合計3回そして、教育実習、病院実習、アルバイト、教員試験などで各県各地方を毎月何回も飛び回っていました。そして教員生活を送りながらスリランカへのチャリティー活動や、音楽活動、旅行、ショッピング、この場では話せない経験や珍事件はつきません。スティービーワンダーにも会えました。行きつけの店がたくさんできるほど色々なところに飲みにいきました。

その一方で、なれない教員生活や人間関係などから僕がストレス太りしてしまったこともありました。そんな時パームも同じようにおなかをこわしていたことを思い出します。こんな毎日でしたが今思えば全て楽しかったです。パームがいたことで、僕ならではの僕にしかできない20代が作れたのだと思います。

僕が盲導犬を持とうと思ったきっかけは、犬と一緒にたくさん出会うが生まれ寂しくはないだろうし、もっと目立った楽しい生活スタイルになるのではといった好奇心からだけではなく、将来結婚して子供を育てる前に何か生き物に責任を持ってみたいと考えたからです。それは僕にとって、もっとも大きなチャレンジでした。

事実、食事、排泄、ブラッシングや健康管理、施設やレストランへの入店など問題点はたくさんありました。その時の心境を例えるなら、なったばかりのシングルマザーといった感じでしょうか。パームと一緒に途方に暮れることもたくさんありました。違ったものを受け入れるのが苦手な日本の風土、まだ若かった僕の感情なども相まって、よくトラブルも起きました。飲食店の入店拒否に関しては、よく激しい言い合いをしていたことを思い出します。

けれどパームとさまざまな経験や努力を重ねた結果、たくさんのことがプラスの方向に進みました。住居に関してはペット可のマンションを買いました。飲食店に関しては盲導犬歓迎のグルメ店の探索ができました。犬の毛の処理に関しては、どうしても人をお願いしなければいけないことがあります。それまでは全て自分のことは自分でやらねばと考えていたのですが、それからは自分の出来ることで精一杯周囲に返すといった人との関係性における考え方の方向転換ができました。さらに今は結婚し子供も持つことができました。式典ではパームがリングドッグという大役も務めました。

パームは僕に寄り添う中で今の僕の生活の基盤やいしづえと一緒に築いてくれたのだと思います。このような多くのプラスは彼と私の営んだ日々と何より楽しいことを追い求める自由への探究心とコンビネーションの賜物だと信じています。

ところで彼の穏やかさと純粋さ、好奇心や思いやり、人との距離感や空気が読めること、人を幸せにできる力、これらはどこからきたのでしょうか。これはきっと元来彼が持ち合わせた性格だけではなく、彼に関わった全ての人の愛情の結晶ではないでしょうか。

僕の職場盲学校でのこんなエピソードがあります。勤務中は静かな環境で図書館職員の方の目の届く3階の図書室で多くの時間を過ごしていました。図書館には毎日たくさんの子供たちが訪れます。その中に肢体不自由でまだ自分では歩けない男の子がいました。でもその子はパームとなら歩けるといい、盲導犬の仕事ではないのですが、パームは1歩1歩その子に寄り添い次の1歩が出るまでじっくり待ち、粘り強さでとうとう階段が下りれるまでになりました。教員でもできなかった大仕事を、。ご両親はカメラを持って息子の晴れ姿を納め、号泣されました。

私は20代にパームに出会えて本当に良かったと思います。それと同時に都合のいい話だと言われるかもしれませんが、この20代に寄り添ったパームも、色々な方法で乗り越えてきた数々のハードルを越える中で、たくさんの成功を喜びとして感じてくれていたと思います。

またこのような関係性が築けたからこそ私はパームにたくさんのことを要求し、ここまでやってこれたのだと思います。

そしてパームとの関係もいつからかシングルマザー、それとは違う同志という存在に変わっていきました。

パームのリタイア先については、子供を嫁に出す父母のような気分で日本中僕の知りうるありとあらゆる人脈をたどって必死であちらこちらかけまわっていました。そんなさなか、不意に長田さんに出会いました。これもまた偶然ではあったのですが、長田さんの人柄、相当な犬好きであること、環境面においても全ての条件が整っていることなどから即座にお願いしました。

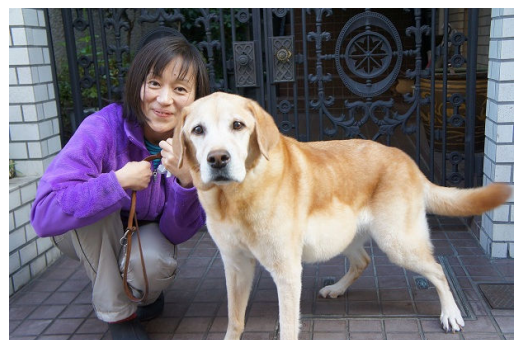
ありがたいことに、パームの引退後も長田ファミリーとはアイメイトカレンダーの撮影会をしたり、食事会をするなどよくちよく交流を持たせていただけていました。一方的にお世話になることが多かったのですが。また千鶴さんのブログには溢れんばかりのパームへの愛情が綴られており、本当にパームはよかったなあと思っておりました。

そんな矢先訃報の連絡をもらい、その何週間か僕も心にぽっかり穴があいたような気がしました。それ以上に長田さんも相当なショックだったと思います。

僕は2月29日大雪の日パームの亡骸にあうため長田さんのお宅に行きました。そこで僕が一番感じたことは、パームは4年間長田さんの家族の一員として幸せに暮らすことができたことで自分は本当に救われた気がしました。僕のところにいたのでは到底こんなにきめ細やかに面倒は見れなかっただろうし、こんなに深く愛情をもって接する余裕もなかっただろうと思います。こんなに整った環境も提供できなかっただろうとも思いました。長田ファミリーにはどんなに感謝を述べてもたりません。

最後になりますがパームが亡くなった今でさえ私にたくさんの人との縁を運んでくれている事実がここに 있습니다。

共に時代を駆け抜けた同志として、今度は暖かい春の日差しをうけ、自由に草原を駆け回りながら、ダイアンと僕の活躍を遠い空から叱咤激励してくれることだと思います。ありがとう。



長田さんとパーム。

後援会員なら 知っておきたい

5月20日（日）に平成24年度のアイメイト後援会の総会が実施されました。総会終了後、協会を代表して歩行指導員の大石さんから啓発活動に関するお話がありました。お話の内容は、協会の「理念」と「仕事」についての確認と、これから協会が目指す「啓発活動」についての説明でした。

今号では、大石さんのお話を抜粋して紹介するとともに、アイメイトに関する情報を皆さんと共有したいと思います。

■アイメイト協会の理念

「視覚障害者の自立と社会参加のお手伝い」この言葉は創設者である塩屋賢一がモットーとしていた言葉です。その思いを受け継いで、常に私たちは視覚障害者が社会参加する為に、犬の訓練、歩行指導、啓蒙活動など日々の業務に取り組んでいます。

■アイメイト協会の仕事

私たちの仕事は犬を訓練することだけではありません。訓練した犬を使って、視覚障害者が社会に出た時に、安心、安全に歩行出来る為の技術を習得させることが目的です。

その為に、1ヶ月に及ぶ歩行指導の中で、犬との歩行の仕方はもちろんのこと、犬の健康管理や、アイメイト使用者としての心構えなど、犬のことは全て責任を持って本人が出来るように指導しています。

■啓発活動に関して

アイメイト協会の考える社会啓発とは、使用者自身がアイメイトと共に積極的に社会に出て、活躍している姿を社会に見せることが一番であると考えています。その為に、アイメイト使用者にとって社会参加の壁となる障害(アイメイトや使用者について正しく理解されていないこと)を取り除くために啓発活動を行っています。

上記の「啓発活動に関して」に、アイメイト使用者にとっての社会参加の壁となる障害は「アイメイトや使用者について正しく理解されていないこと」とあります。

協会では、これまで「アイメイトの認知を向上」に主眼を置いて啓発活動を行ってきました。そして、「アイメイトは視覚障害者の歩行のパートナー」であることや「アイメイトに触ってはいけない」などの認識が社会に浸透しました。その反面、犬への関心だけが高まり、使用者への関心や理解が伴っていないという事実も浮き彫りになったと考えています。今後は、もっと視覚障害者に焦点をあてた啓発活動にシフトさせて、使用者への知識と理解が深まっていくことにより、周りの人間や社会が困っている人の手助けが自然にできる環境作りに繋がっていきたいと考えています。



地域のイベントや街頭募金などの後援会の活動で、多くの人と接する機会がある後援会員の私たちも、アイメイトについて正しく知っておくことが大切です。次頁では、皆さんと共有したい情報を紹介します。

❑ 日本には10の盲導犬育成団体があります。

日本には、視覚障害者に犬との歩き方を指導する団体は、アイメイト協会を含め10あります。北は北海道から、南は九州まで全国に点在しています。そして、それぞれが独立した団体であり、各団体の考えの基で犬の訓練や歩行指導を行っています。

❑ アイメイトになれる割合

アイメイト協会では、8割の犬が視覚障害者のパートナーとして、協会を卒業していきます。残りの2割は、乗り物に酔う、雷や踏切などの大きな音を怖がるなどの理由で、一般のご家庭にペットとして迎えられます。

盲導犬になるのは3割程度と説明する団体もありますが、事情は各団体で異なります。アイメイト協会に限って言えば、3割という数字はあてはまりません。

❑ 犬の訓練期間も歩行指導の内容も協会によってさまざま

アイメイト協会の犬の訓練期間は4カ月間です。各団体がそれぞれの考えで訓練を行っていますので、訓練期間もその内容も異なります。

❑ 訓練は「愛情をもって褒めて、叱って」

アイメイト協会では、犬の訓練にエサは使いません。エサを使うとエサをもらわないと指示に従わない、他者が見せびらかす食べ物に反応して、使用者が危険にさらされる可能性があると考えからです。

アイメイト協会は、「人の気持ちは犬にも伝わる」との考えのもと、真摯な気持ちで犬に向き合うという姿勢で訓練しています。褒めるときも叱るときも心から、というのがその表れです。

❑ アイメイトの訓練は街中

アイメイト協会では、道路は、天候や時間帯によって状況が変わる“生き物”と考えています。道路工事で昨日まで通れた道が通れなくなったり、夕方になるとスーパーの前に自転車がいっぱいになったり、雪が降れば段差なども分かりにくくなります。アイメイト協会では、卒業後に使用者がどこでも外出できるように、歩行指導を公道で行っています。

❑ 全国にいるアイメイト使用者

(社福)日本盲人社会福祉施設協議会 自立支援部会盲導犬委員会発行の「平成23(2011)年度盲導犬訓練施設年次報告書」の発表によれば、2012年3月31日現在で、全国で実働している盲導犬は、1,043頭です。アイメイト協会の実働数は283頭と最多で、全体の約27%を占めています。

また、使用者の分布(都道府県数)を見ると、33地域でアイメイト協会の卒業生がアイメイト共に暮らしています。

盲導犬になる割合ひとつとっても、各団体によって状況は違っています。アイメイトについて説明する場合は、例えば「アイメイトの場合はね」と前置きをして話してみると、盲導犬といってもいろいろあるんだね、ということが相手に伝わることと思います。

私たちが正しく理解すること。そこから他者への関心や興味が生まれ、“心のバリア”がない社会を築く第一歩につながっていくのではないのでしょうか。

「これってどうなんだろう？」と疑問に思ったことは、協会に聞いてみるのもいいですね。



「アイメイト協会同窓会」総会を、後援会員がお手伝い

4月28日（土）、アイメイト協会にて

（報告・平井三敬）

■ アイメイト協会同窓会の総会をサポート

4月28日（土）にアイメイト協会で行われたアイメイト協会同窓会（アイメイト使用者の会）総会のお手伝いを、後援会員6名がしました。西武新宿線「東伏見」駅の改札口や交差点に立っての誘導や受付、アイメイトグッズの販売等です。

同窓会総会へは、計24名の出席者の方達が、11時半の受付を目指して、歩行訓練の時を思い出しながらパートナーと協会に向かいました。



■ 前年度に亡くなったアイメイトへ黙とう

稲村会長の挨拶で始まり、事業報告等の前に前年度に亡くなった30頭のアイメイトの名前が読み上げられて、慰霊のための黙とうをしました。

今年度の事業予定ではアイメイトデーの参加や茨城でりんご狩りのレクリエーション、研修会、ホームページの開設などについて話し合わせ、協会新職員女性2名の紹介や同窓会新理事や退任理事の発表もありました（新理事の一覧は、右下表を参照のこと）。

総会終了後は場所を移し旧理事を囲んで慰労の打ち上げが居酒屋で2時間も続きました。



《 後援会の事前準備 》

同窓会の活動が円滑に進むようサポートすることも、大切な後援会活動のひとつです。

例えば、こうした同窓会の総会をはじめ、同窓会のレクリエーションに参加したり、理事会に同席し、受付や誘導、お金を数えたりといったお手伝いをします。また、文書の発送作業などもサポートします。

協会までの道順は、歩行指導で知っているはずとはいえ、久しぶりに訪れる人もあるだろうということで、サポートしました。どの交差点に立って方向を指示するか、何時から、どのような配置にするかといったことを事前に相談し、当日を迎えました。

《 同窓会理事一覧（平成24年度）》

会 長：稲村 洋志（いなむら ひろし）さん
理 事：荒川 明宏（あらかわ あきひろ）さん
風間 幸子（かざま さちこ）さん
岸田 昌子（きしだ まさこ）さん
駒形 美智子（こまがた みちこ）さん
千代 元子（せんだい もとこ）さん
田辺 邦夫（たなべ くにお）さん
八田 冴子（はった さえこ）さん
松井 進（まつい すずむ）さん
和田 良昭（わだ よしあき）さん
会計監査：大塚 秀夫（おおつか ひでお）さん

初年度の寄付式を開催

——— コンタクトレンズの株式会社シードが333万円を寄付 ———

コンタクトレンズの株式会社シードでは、2011年7月より「Pureな愛（eye）をありがとうプロジェクト」を立ち上げ、アイメイト協会をサポートしています。プロジェクトは、シード製使い捨てコンタクトレンズ「シードPureシリーズ」の売上箱数に応じて、アイメイト協会へ寄付を行うというもので、このほど、初年度（2011年度〔9か月分〕）として、3,330,090円がアイメイト協会へ寄付されました。

去る6月5日、東京都文京区にあるシード本社にて目録と感謝状の贈呈が行われました。この結果についてシードでは、プロジェクトのキャッチフレーズ、「あなたの“見える”が、誰かの“見える”に」に対し、多くの方々からご賛同、ご協力を得られた結果と考えているとのこと。今後もプロジェクトの継続とさらなる発展を目指すとしています。



▲シード・浦壁昌広社長（左）と塩屋隆男理事長（右）。

■ 本社内を巡回してご挨拶

寄付式には、アイメイト協会から職員1名と訓練中の犬1頭も同席しました。寄付式の後は、お礼と実演を兼ねて本社の各フロアを巡回。シードの社員の皆様にご挨拶しました。

犬にはハーネスが付いた状態でしたが、職員から特別に触ってもよいと許可があり、社員の方が順番に近づいて交流しました。とはいえ、さすがはアイメイト。ステイやダウンの指示の最中でしたから、じっと黙って触られてしていました。



■ 「Pureな愛（eye）をありがとうプロジェクト」

■ 「Pureな愛（eye）をありがとうプロジェクト」の概要（同社資料より）

視覚障害は情報障害といわれています。

目からの情報が得られない為に、歩行に不自由をきたしますが、目の役割を担って視覚障害者の歩行、ひいては社会参加を助けるのがアイメイト（盲導犬）です。視覚障害者の方は、アイメイト（盲導犬）とともに、あたかも目を得たかのように一人で自由に外を歩行します。「Pureな愛（eye）をありがとうプロジェクト」は、そんな“見える”を、コンタクトレンズを通じてサポート。売上箱数に応じた寄付を行うことで、私たちがコンタクトレンズを装着して“見える”状態になることと同時に、視覚障害者の方の“見える”もサポートをしていくのが目的です。

■ 活動内容

本プロジェクトは、売上箱数に応じた寄付を行うだけでなく、「あなたの“見える”が、誰かの“見える”に」というキャッチコピーのもと、自社の広告、宣伝媒体、web、イベントを通じてアイメイト啓発活動を積極的に展開し、盲導犬の育成を助成してまいります。

